

プログラム名 (40字以内)	『日韓国交正常化60周年記念プログラム<メディアと韓国社会> ～日韓における共通課題を実践的に考える～』		
団体名/所属	ソウル東大会/教養学部 鄭孝俊		
活動区分	国際交流体験活動	希望する選考方法	書類審査のみ
募集人数	10人	選考対象	大学院学生を含む
活動方法	現地活動のみ		
参加者に求めるもの	韓国語能力は問わない。メディアへの就職や日韓の未来志向を真摯に考えている学生を求める		
活動期間	2025/9/2(火)～9/6(土)	主な活動予定場所	ソウル市、世宗市、天安市
プログラム実施の目的	1965年の日韓国交正常化から60周年を迎えた。この節目を記念して今年は日韓の間でさまざまな交流事業が展開される。本プログラムは主に現地メディアと政府機関の移転地を訪れて日韓に共通する課題をジャーナリスティックな視線から学び、問題解決に向けた実践的思考法を養うことで未来志向の日韓関係に貢献できる人材の育成に繋げたい。深刻化する少子化、人口の首都圏集中、ジェンダーギャップ、拡大する経済格差、大学教育、移民対策、多文化共生など日韓には多くの共通する課題がある。現地での視察、交流、ワークショップを通して個々の問題意識を高めていくことを目標とする。		
具体的な内容(800字程度)	<p>1. 韓国の京郷新聞社を訪問。元東京特派員の論説室長レクチャー。言語は日本語。 内容: 韓国の外交、安保、少子化、移民政策、日韓関係の在り方について直接説明を受け、質疑応答を通じて政策の背景にある課題を理解する。</p> <p>2. 多文化共生の現場見学と交流 内容: 外国人労働者や結婚移民(国際結婚で韓国に移住した人)を支援するNPO団体を訪れ移民当事者から直接話を聞く。また、中国出身の朝鮮族が多く住むソウル・大林洞や九老で地域の現状や就労環境を観察。朝鮮族が経営する飲食店で食事をとりながらその経済活動の実態を調査。どのような社会的困難を抱えているのかを理解し日本の移民政策との比較を考える。</p> <p>3. 韓国の若者との交流 内容: ソウル大学、あるいはその他の大学を訪れ韓国の若者が抱く熾烈な受験競争や少子化に対する意識、移民受け入れの考え方について意見交換を行い日本と比較しながら多様な視点を得る。また、ベンチャー分野に特化した学びを提供する湖西大学を訪れ招聘教授から未来志向の大学の実践的学びや韓国における地方大学の現状と課題について意見交換する。この教授は京郷新聞社の元東京特派員を務めており日韓事情に詳しい。また鳥取県の若狭鉄道集駅の名誉駅長にも就任しているため日韓を架橋する観光ビジネスのアイデアについてフィードバックをもらう。言語は日本語。</p> <p>4. 首都圏への人口集中対策と政府機能移転の現場を視察 内容: ソウル首都圏の諸機能分散と人口の過度の集中解消などを目的にソウルの南東約120km、国のほぼ中央に位置する世宗市に中央政府行政機関などを分散移転させる事業が進行中だ。現在、教育部、文化体育観光部など10以上の機関が移転し2028年には国会議事堂や大統領執務室も移転予定。東京との比較を通して日本の課題を再確認する。</p> <p>5. 日本メディアが見た日韓の課題 TBSのソウル支局を訪問。特派員の目から見た日韓の課題を改めて知り、参加者の問題意識を高める。また、SNSの氾濫による人権侵害が相次ぐ中、特派員という仕事のやりがいや苦勞、そして報道とは何かについて突っ込んだ交流を目指す。</p> <p>6. 実践型ワークショップ:「日韓の政策比較と提言」 内容: 韓国滞在中の学びを基に、日韓に共通する課題と違いを整理し学生同士でワークショップを実施。最終日に成果を発表し現地ジャーナリストや研究者からフィードバックをもらうことで実践的な思考力を養う。</p> <p>7. 同窓会であるソウル東大会と日本大使館への表敬訪問及び懇談会</p>		
【総額】参加するための費用	合計約70,000円 内訳: 往復航空券約30,000円(LCC利用)、宿泊費約20,000円、その他交通費食費日用品購入費として約20,000円		
【内訳】参加するための費用(宿泊費)	宿泊地は現地ビジネスホテル個室、あるいはゲストハウス2～4人部屋(男女別)で4泊計約20,000円。事前に希望を募る		
【内訳】参加するための費用(交通費)	航空券往復チケットはLCC利用で約30,000円～40,000円を想定。ソウル市内ではバスや地下鉄など公共交通機関を利用		
【内訳】参加するための費用(その他)	ソウルから世宗市、天安市への移動は高速鉄道KTXかバスを想定。事前に参加者の希望を募る		
奨励金額(予定)	40,000円		
備考	飛行機のチケットについては為替レートや燃油サーチャージによって価格が変動する可能性がある。原則、現地集合、現地解散なので出発地と次の目的地については自身で判断すること。宿泊施設はビジネスホテルの個室からゲストハウスのドミトリーなど豊富なのでこちらも参加者自身でそれぞれ決めることが可能。ただし、体験活動プログラムの日程上、各日の集合場所に近いエリアが便利である。日本大使館とソウル東大会の懇親会は費用負担なし		
活動に関する関係資料のダウンロードサイト	移民と多文化共生をテーマにした10回連載の第1回記事(原文韓国語) <a href="https://www.khan.co.kr/article/202203230600005">https://www.khan.co.kr/article/202203230600005</a>		
応募団体を紹介するウェブサイト等(団体で応募の場合)	<a href="https://www.u-tokvo.ac.jp/ia/alumni/interact/list.html">https://www.u-tokvo.ac.jp/ia/alumni/interact/list.html</a>		
この企画に対する担当者(応募団体)の参加の有無	参加する		